

恐怖の報酬

観賞日 2021年2月8日

【概要】

制作 1953年 フランス イタリア 上映時間 149分
監督・脚本 アンリ＝ジョルジュ・クルーゾー
音楽 ジョルジュ・オーリック
撮影 アルマン・ディラール
出演 イヴ・モンタン (マリオ)、シャルル・ヴァネル (M・ジョー)
フォルコ・ルリ (ルイジ)、ペーター・ファンアイク (ビンバ)、
ヴェラ・クルーゾー (リンダ)



【あらすじ】

南米の産油国、ベネズエラ。フランス系移民のマリオは同郷のジョーと出会い意気投合する。マリオにはリンダという恋人がいる。ある日、油田で爆発事故が起き多数の死傷者が出る。アメリカ資本の会社は燃え盛る火を消すためには大量のニトログリセリンで爆風を起こすしかないという結論に達する。そこで、急遽、500キロ先の現地まで大型トラックでニトロを運ぶドライバーを募る。危険な仕事だけに2000ドルという破格の報酬が提示される。カネに釣られた応募者の中から採用されたのはマリオとジョー、ルイジとビンバの4人。4人はペアになって2台のトラックに分乗。悪路を細心の注意で突き進む。強気だったジョーがにわかに怖じ気づく。しかし、今更後戻りはできない。道路をふさぐ岩をビンバの発案でニトロを使って爆破。難関を乗り越え上機嫌で出発したルイジとビンバのトラックが突如爆破。それを見て恐怖におののくジョー。次の障害は原油の泥沼。なんとか脱出したものの目的地直前でジョーが死亡。しかし、一人残ったマリオが届けたニトロで鎮火に成功。一躍、英雄になり、凱旋するマリオの帰路に起きたことは・・・。

手に汗握るシーンがてんこ盛り。サスペンス映画の古典的名作。

【解説】

■ポイント

●イヴ・モンタン (1921年～1991年)

- ・イタリアで生まれたが2歳の時にマルセイユに移住。ミュージックホールで歌っていたところを大歌手のエディット・ピアフに認められ、パリに進出。
- ・1946年の「光なき星」で映画デビューを果たし、初主演した本作で映画俳優としての地位を確立。以後、ハリウッドにも進出し、「恋をしましょう」(1960年)、「パリのめぐり逢い」(1966年)に出演。
- ・プライベートでは1951年に女優のシモーヌ・シニョレと結婚。父親が共産主義者であったことから政治運動に熱心であった。



●受賞

第6回カンヌ国際映画賞：グランプリ、男優演技賞 (シャルル・ヴァネル)
第3回ベルリン国際映画賞：金熊賞

■見どころ

- 4人の行く手を阻む、次々に起きる難題
- 最後の思いがけない結末